

第11回「資産運用の基礎（その4）～「リスクとリターンの関係性」～」

三菱UFJ信託銀行 菅谷 和宏

これまでに資産運用の基礎として、「長期」「つみたて」「分散」投資の大切さをご説明しました。今回は金融商品ごとの「リスクとリターンの関係性」についてご説明します。

【資産運用の基礎-⑧】 ◆「リスクとリターン」の関係性を知ろう！

第9回で「リスク」とは、「収益率のブレ幅」（予測できない不確実性）であり、プラスのブレ幅もマイナスのブレ幅も「リスク」であること、そして、「リスク」には「①価格変動リスク」「②金利変動リスク」「③信用リスク」「④流動性リスク」「⑤為替変動リスク」があることを説明しました。

今回は、金融商品についてのリスクとリターンの関係性について見てみましょう。

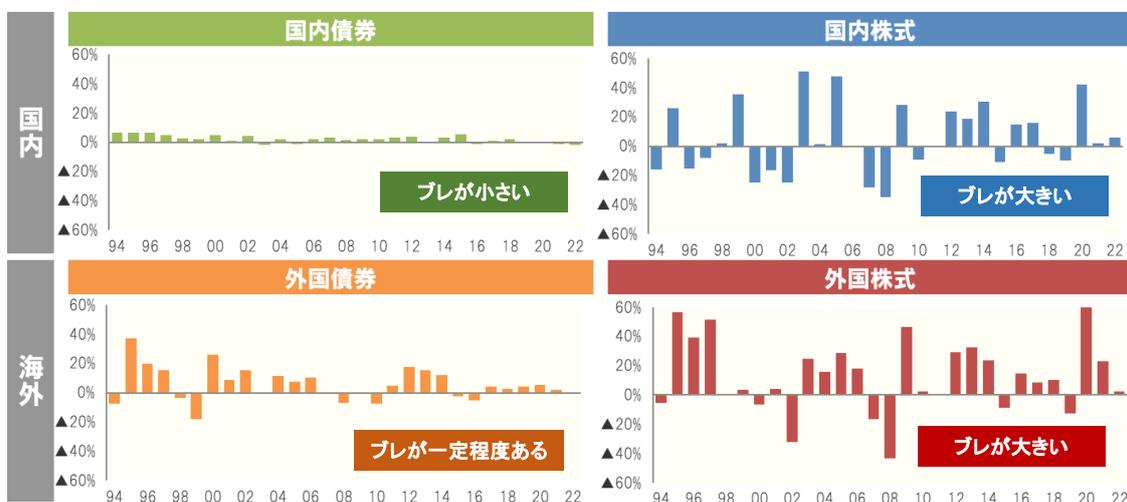
一般的に金融商品は「リターン（収益率）は高いが、リスク（収益率のブレ幅）も高い」ものと、「リスクは小さいがリターンも低い」という性格を持つものがあります。

（もし、誰かに「この金融商品はリターンが高く、リスクが低いのでお得です」と言われたら、詐欺だと思ひましょう、そんな金融商品はありません！）

金融商品の種類には大きく分けて「国内債券」「国内株式」「外国債券」「外国株式」の4種類があります。「国内債券」（日本国が発行している国債や国内企業が発行している社債等）は、リスクが比較的小さいですが、収益率はあまり高くありません（低リスク・低リターンの金融商品）。一方、「国内株式」（国内企業が発行している株式）や「外国株式」（海外企業が発行している株式）は、リスクは比較的大きい（株価のブレ幅が大きい）ですが、リターンも相対的に高い（当然ながら株価は下がることもあります）金融商品です。

図表1を見て頂くと、「国内債券」は上下のブレが小さく、「国内株式」「外国株式」は上下のブレが大きいことが分かりますし、「外国債券」（海外の国が発行している国債や海外企業が発行している社債等）も一定程度、上下にブレ幅があることが分かります。

（図表1）基本的な金融商品の分類とリスク（収益率のブレ幅）



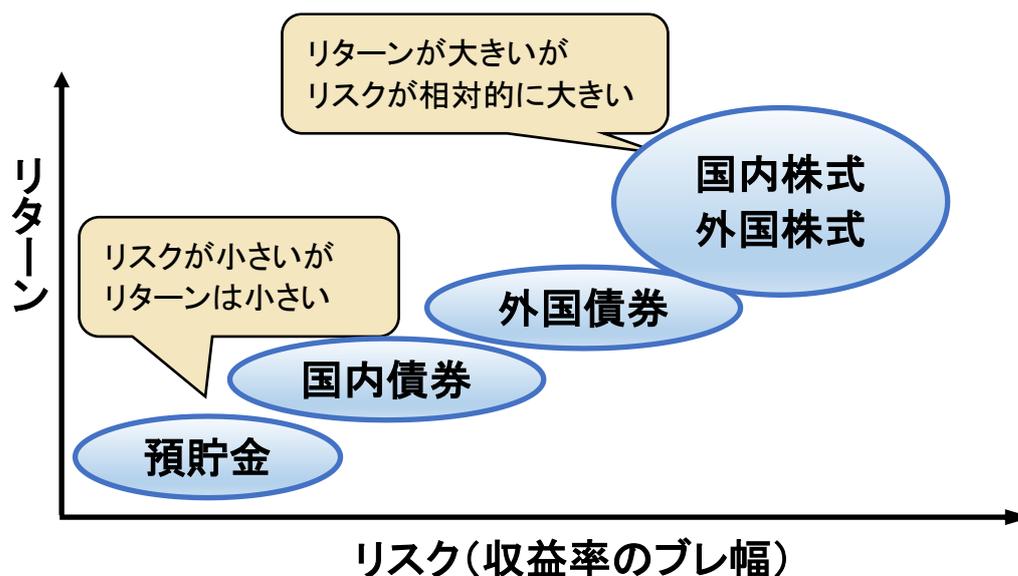
【資産運用の基礎⑨】 ◆金融商品の「リスクとリターン」!

この4種類の金融商品に、元本が保証された「預貯金」(銀行の預金、ゆうちょ銀行の貯金等)を加えた5種類の金融商品のリスクとリターンの関係性は図表2のようになります。

「預貯金」は元本が保証されているため「リスク」はほぼない(銀行が倒産した場合は普通預金・定期預金などは1,000万円まで補償)金融商品ですが、現在では金利水準が低いため利率は0.1%程度で「リターン」も小さく、今のように2%程度の物価上昇では普通預金では価値が下落してしまいます(第8回では、現状の金利では、物価上昇によりリンゴが100円から110円に値上がりした場合、預金していた100円のお金では1年後に101円(金利1%の場合)にしかならず、リンゴが買えなくなる事例をご紹介しました)。

これは、「いわゆる物価上昇(インフレ)」による品物の値上がりに、預貯金の利率が追い付いていないことから生じるものです。そのため、資産運用を続けて金融資産の価値を増やす必要があるということです。

(図表2) 金融商品の種類による「リスク」と「リターン」の関係性



次回は、リスクとリターンの関係を基に、金融商品を選ぶ際のポイントについてご説明します。